

2022

**Active Directory management made
simple, easy and efficient.**



スタートアップガイド

ManageEngine
AD360

2022年3月22日発行（第3版）

■著作権について

本ガイドの著作権は、ゾーホージャパン株式会社が所有しています。

■注意事項

本ガイドの内容は、改良のため、予告なく変更することがあります。
ゾーホージャパン株式会社は本ガイドに関しての一切の責任を負いかねます。当社はこのガイドを使用することにより引き起こされた偶発的もしくは間接的な損害についても責任を負いかねます。

■商標一覧

Oracle と *Java* は、*Oracle Corporation* 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
ManageEngine は、ZOHO Corporation Pvt.Ltd 社の登録商標です。
なお、本ガイドでは、(R)、TM 表記を省略しています。

目次

1.はじめに.....	3
1-1 本ガイドについて.....	3
1-2 対象読者	3
1-3 本ガイドの見方	3
1-4 AD360 製品使用上の注意点	4
2.主な機能と特徴概要.....	6
2-1 ライセンスの種類.....	6
評価版（無料版）から Professional 版に切り替える方法.....	6
2-2 標準ライセンス.....	7
2-3 オプションライセンス.....	7
3.インストール.....	8
3-1 システム要件.....	8
サポート OS	8
サポートする Web ブラウザー	8
3-2 インストール手順.....	9
4.起動と停止	13
4-1 アプリケーションとしての起動/停止	13
AD360 の起動方法	13
AD360 の停止方法	13
4-2 Windows サービスとしての起動/停止.....	14
AD360 サービスのインストール方法	14
AD360 サービスの起動方法	14
AD360 サービスの停止方法	15
5.Web コンソールへのアクセス	16
6.連携設定.....	18
7.製品へのアクセス方法.....	19
8.各タブの解説	20
9.各製品の初期設定	22
10.お問い合わせ	23

1. はじめに

1-1 本ガイドについて

本ガイドでは AD360 のインストール方法から初期設定の内容について説明しています。

また、本ガイドは ビルド 4300 を元に作成しています。

1-2 対象読者

本ガイドは、導入に関するシステム管理者を対象としています。

1-3 本ガイドの見方

本ガイドでは、文字の書体を次のように区別して記載しています。

表 1 文字の書体について

字体または記号	説明	例
'AaBbCc123'	ファイル名、ディレクトリ名、画面上の出力を表示します	'ManageEngine_AD360_x64.exe'を管理者権限にて実行します
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピューター出力と区別して示します。	アドレスバーに <code>http://host_name:port_number</code> を入力します
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	インストールしたディレクトリを AD360_Home とし、説明を行います。
[AaBbCc123]	ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	[ファイル監査]タブ

1-4 AD360 製品使用上の注意点

AD360 では以下のポートを使用します。利用時にはポートが使用できる状態にしてください。

表 2 サーバー使用ポート

ポート番号	プロトコル	サービス
8082	HTTP	HTTP
8445	HTTPS	HTTPS
135	TCP	RCP & DCOM
389	TCP/UDP	LDAP
636	TCP	LDAP SSL
3268	TCP	LDAP GC
3269	TCP	LDAP GC SLL
88	TCP/UDP	Kerberos
53	TCP/UDP	DNS
445	TCP/UDP	SMB
25	TCP	SMTP
464	TCP/UDP	Kerberos Change & Set Password
2535	UDP	DHCP
67	UDP	DHCP
137	UDP	NetLogon & NetBIOS Name Resolution
138	UDP	NetLogon
139	TCP	NetBIOS Session Service & NetLogon
42	TCP	Host name server protocol
593	TCP	RPC over HTTP

なお、コンポーネント製品ごとのポートは次の通りです。

製品名	HTTP	HTTPS
AD360	8082	8445
ADManager Plus	8080	8443
ADAudit Plus	8081	8444
ADSelfService Plus	8888	9251
M365 Manager Plus	8365	9365

2. 主な機能と特徴概要

2-1 ライセンスの種類

ManageEngine 製品には「通常ライセンス」と「年間ライセンス」の 2 つのライセンス形態があります。

各ライセンス形態の特徴とメリットは以下の通りです。

表 3 年間ライセンスの特徴

種類	特徴	メリット
通常ライセンス	<ul style="list-style-type: none">■ 無期限の製品ライセンスに、初年度のみの年間保守サポートサービスが含まれている■ 製品の納品日から保守サービスが開始され、以後、1 年ごとに年間保守サポートサービス契約を更新する	半永久的にソフトウェアが利用可能（無期限の使用許諾）
年間ライセンス	<ul style="list-style-type: none">■ 1 年間利用可能な製品ライセンスで、年間保守サポートサービスが含まれている■ 1 年ごとに年間ライセンス契約を更新する	毎年使用権を購入する体系で、少額の費用で利用開始可能

※AD360 は 60 日間無料でフル機能を試用可能な評価版を提供しています。

またライセンスのご購入がない状態で 60 日が経過すると、自動的に無料版へ移行します。

評価版（無料版）から Professional 版に切り替える方法

- 1) AD360 画面の右上にある[ライセンス]をクリックすると、ライセンス情報ページが表示されます。



- 2) [参照]をクリックして、購入したライセンスファイルを選択します。
- 3) [ライセンスの使用許諾を申請する]をクリックし、ライセンスを適用します。

2-2 標準ライセンス

AD360 のライセンスは、管理するドメイン数・ドメインコントローラー数・ドメインユーザー数に基づきます。

表 4 標準ライセンスの役割と機能

機能	役割	機能の一部
Active Directory イベントログ監査	Active Directory/Azure AD のログ監査	<ul style="list-style-type: none">■ セキュリティログのリアルタイム追跡■ Azure AD 監査■ ユーザーの振る舞い検知
Active Directory オブジェクト管理	Active Directory/Exchange Server/ Office 365 (Microsoft 365) のオブジェクト管理	<ul style="list-style-type: none">■ Active Directory の状況をレポート化■ Office 365 (Microsoft 365) 連携■ 複数タスクの自動化■ 申請・承認のワークフロー
Active Directory パスワード管理のセルフサービス化	Active Directory のパスワード管理に対する セルフサービス化とパスワード同期	<ul style="list-style-type: none">■ パスワードリセット/アカウントロック解除のセルフサービス■ 二段階認証を使用したセキュリティ強化■ AD 情報のセルフアップデート

2-3 オプションライセンス

必要に応じて、以下のオプションが購入可能となっております。

表 5 オプションの役割と機能

機能	役割	機能の一部
ファイルサーバー/NetApp/EMC 監査	ファイルに対する変更履歴の監査	<ul style="list-style-type: none">■ ファイルに対する作成・削除・変更の監査■ ファイルに対する SACL/ACL 変更の監査■ ファイルに対する読み取り成功・失敗の監査
ワークステーション監査	ワークステーション (クライアント OS) に対する ローカルログオン/ログオフの監査	<ul style="list-style-type: none">■ ログオン/ログオフの監査■ 勤怠管理■ USB 使用の監査
メンバーサーバー監査	メンバーサーバー (サーバーOS) に対する ローカルログオン/ログオフの監査	<ul style="list-style-type: none">■ ログオン/ログオフの監査■ 勤怠管理■ ADFS ログオンの監査
Azure AD テナント監査	Azure AD に対する認証/変更の監査	<ul style="list-style-type: none">■ ログオン/ログオフの監査■ アプリケーション追加の監査■ ライセンスの変更監査
Office 365 (Microsoft 365) ユーザー	Office 365 (Microsoft 365) ユーザーの管理	<ul style="list-style-type: none">■ Office 365 (Microsoft 365) に対する 監査・監視■ ユーザーの一括管理■ メールボックスの作成・削除・変更管理

3. インストール

3-1 システム要件

AD360 は.exe 形式で配布されています。また Windows の 64bit に対応しており、以下の推奨システム要件を満たした任意のサーバーへインストールすることが可能です。

- * CPU : 2.13 GHz 以上
- * メモリー : 4 GB 以上
- * ハードディスク : 10 GB 以上



NOTE

AD360 は、ADManager Plus/ADSelfService Plus/ADAudit Plus/M365 Manager Plus を 1 つの製品に包括した Active Directory 統合運用管理ツールです。同一サーバーにインストールする製品の数により、必要となるハードディスク要件は変動します。**5 製品を 1 つのサーバーにインストールする場合、最小で 90 GB が必要です。**

サポート OS

AD360 は、下記バージョンの Windows OS にインストールすることができます。

※クライアント OS は評価目的のみで利用可能です。本番環境にはサーバーOSをご利用ください。

- * Windows 8 (8.1) / 10
- * Windows Server 2012 / 2012 R2 / 2016 / 2019 (64bit)

サポートする Web ブラウザー

AD360 は、以下の Web ブラウザーから閲覧することができます。

- * Microsoft Edge
 - * Mozilla Firefox 40 以上
 - * Google Chrome 45 以上
- ※ JavaScript の実行を許可してください。

3-2 インストール手順



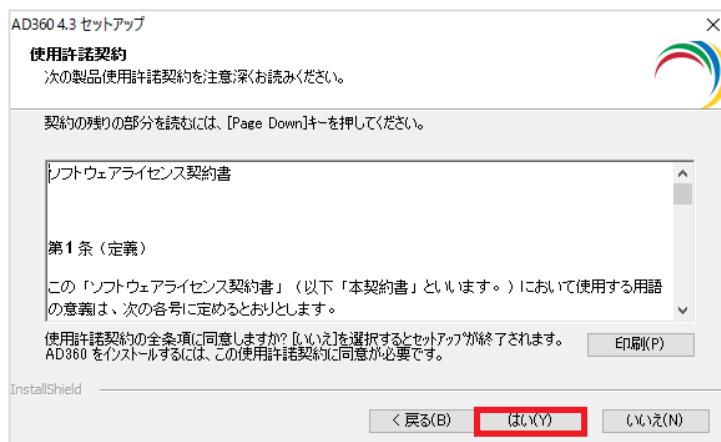
NOTE

アンチウイルスソフトやバックアップツールなどをインストールしている場合は、**AD360 をインストールしたフォルダーを必ずスキヤン対象またはバックアップ対象から除外してください。**除外していない場合、スキヤンまたはバックアップによってデータベースが破損する恐れがあります。また、リアルタイムスキヤンを実施している場合は、スキヤンが実行される際に AD360 のパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。

- 1) 'ManageEngine_AD360_64bit.exe' を管理者権限で実行します。
- 2) インストールウィザードが表示されたのち、[次へ]をクリックします。



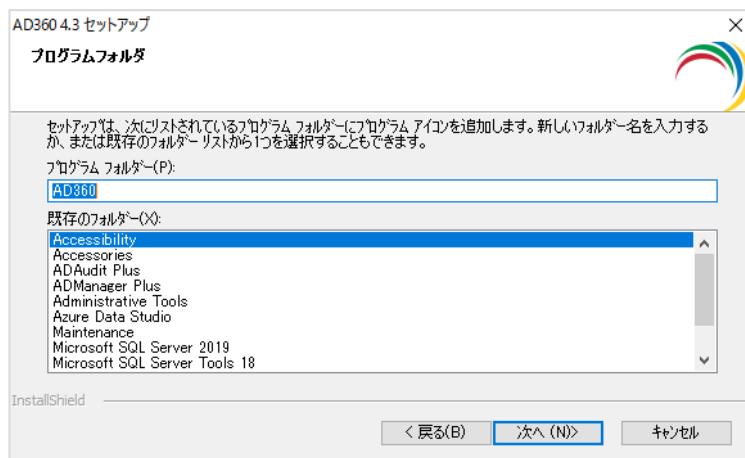
- 3) ライセンス条項を承諾後、[はい]をクリックします。



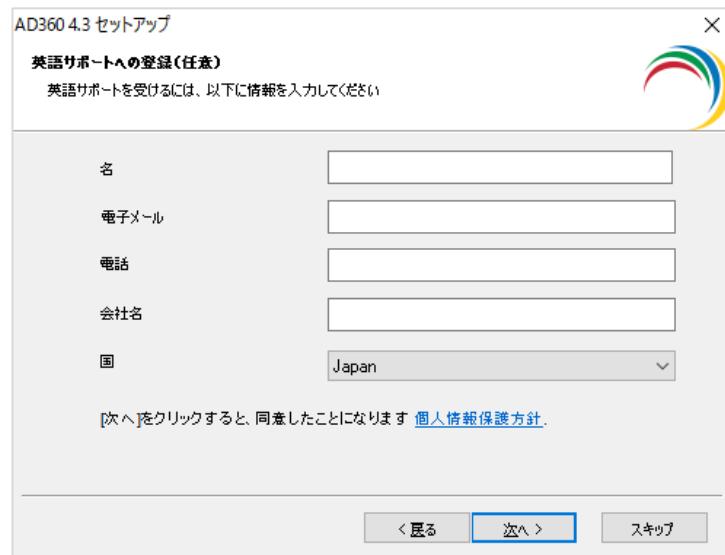
4) インストールディレクトリを選択し、[次へ]をクリックしてください。デフォルトは‘C:\ManageEngine\AD360’です。



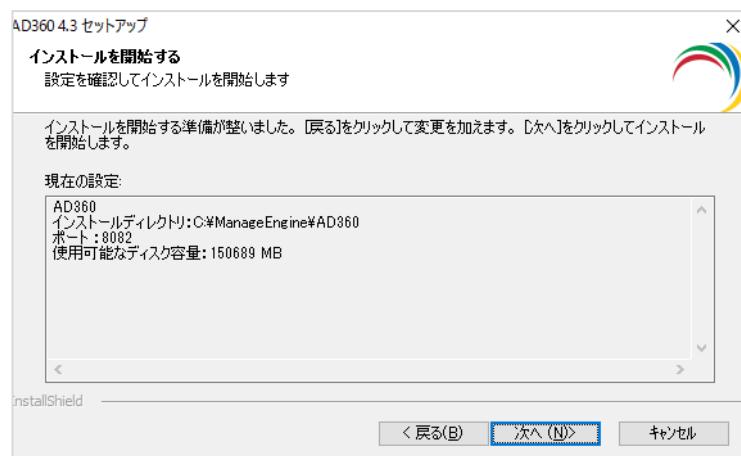
5) プログラムフォルダ名を入力し、[次へ]をクリックしてください。デフォルトでは、**AD360** です。



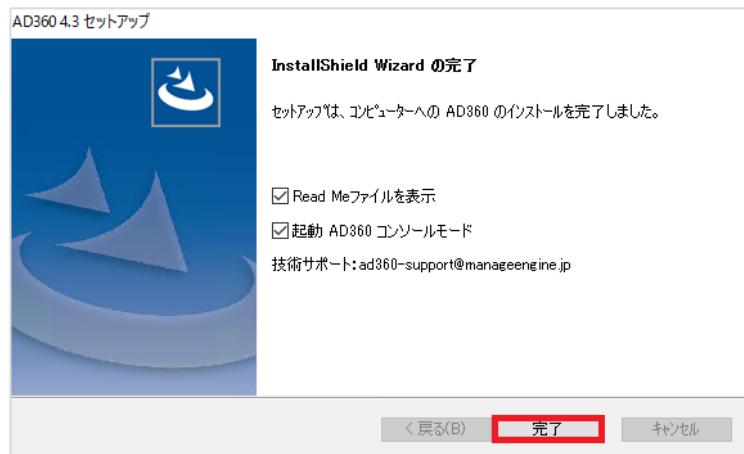
6) お客様情報を入力します。（任意）



7) AD360 をインストールするか選択を行います。



8) インストールの完了です。必要に応じてオプションを選択後、[完了]をクリックします。



※各チェックボックスについて :

[ReadMe ファイルを表示] -> リリースノート（英語版）が開きます。

[起動 AD360 コンソールモード] -> 終了後 AD360 がアプリケーションとして起動します。

4. 起動と停止

AD360 には、2 通りの起動方法がございます。それぞれの起動方法につきましては、以下をご参照ください。

- ・アプリケーションとして起動（[4-1 アプリケーションとしての起動/停止](#)をご参照ください。）
- ・Windows サービスとして起動（[4-2 Windows サービスとしての起動/停止](#)をご参照ください。）

※「Windows サービスとして起動」を推奨しておりますが、お使いの環境に適した起動方法を選択いただけます。

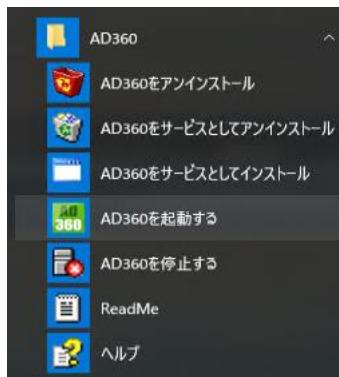


NOTE

AD360 を起動した際、連携している製品も自動的に起動します。

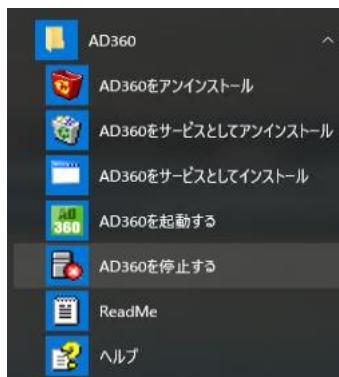
4-1 アプリケーションとしての起動/停止

AD360 の起動方法



AD360 をアプリケーションとして開始するには、[スタート] → [AD360] → [AD360 を起動する]を選択します。

AD360 の停止方法

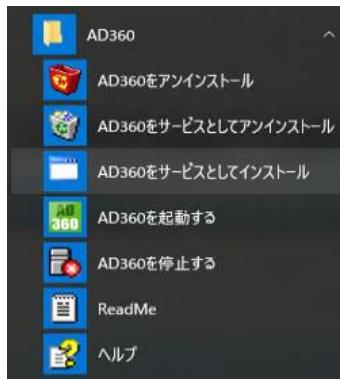


AD360 をアプリケーションとして停止するには、[スタート] → [AD360] → [AD360 を停止する]を選択します。

4-2 Windows サービスとしての起動/停止

AD360 サービスのインストール方法

- 1) スタートメニューをクリックします。
- 2) AD360 の中にある[AD360 をサービスとしてインストール]をクリックします。
- 3) AD360 が[services.msc]に追加されます。



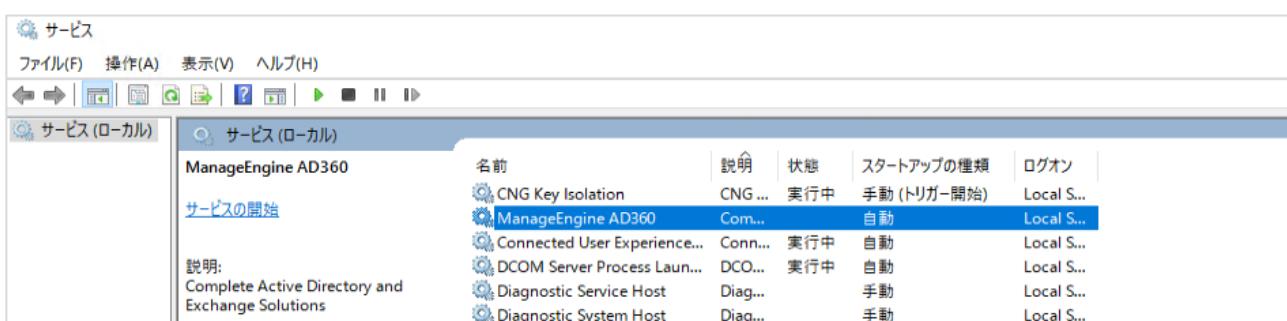
NOTE

※ コマンドプロンプトからサービスを追加する場合

- 1) コマンドプロンプトを管理者として実行します。
- 2) <AD360 インストールフォルダー>\bin フォルダーに移動します。
- 3) 次のコマンドを実行します

InstallNTService.bat

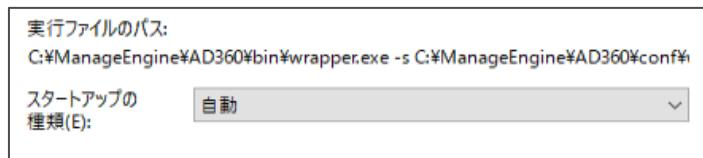
AD360 サービスの起動方法



1. [スタート]→[コントロールパネル]→[管理ツール]→[services.msc]を開きます。
2. [ManageEngine AD360]を選択します。
3. [サービスの開始]をクリックします。

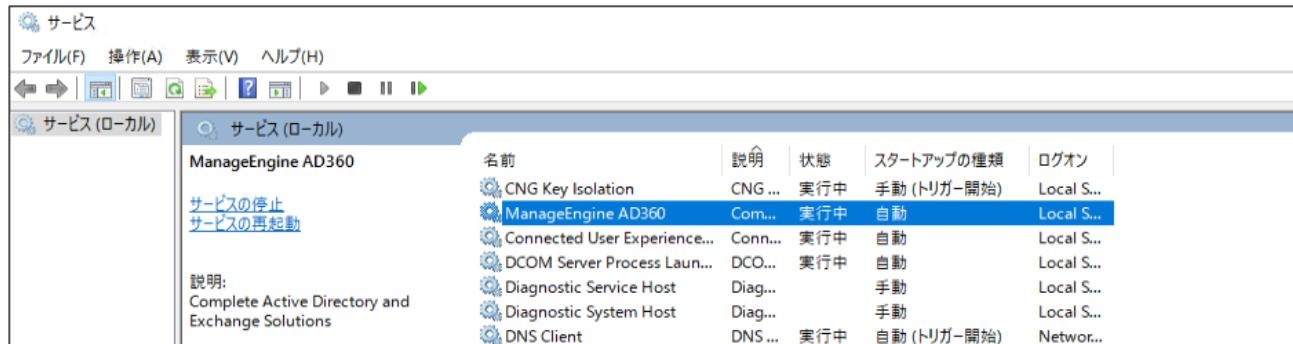
NOTE

Windows サービスへ登録すると、OS 起動にサービスが自動起動します。自動起動を有効化するため、サービス名をダブルクリック時に表示されるプロパティ画面にて、「スタートアップの種類」が「自動」となっていることをご確認ください。



AD360 サービスの停止方法

- [スタート]→[コントロールパネル]→[管理ツール]→[services.msc]を開きます。
- [ManageEngine AD360]を選択します。
- [サービスの停止]をクリックします。



5. Web コンソールへのアクセス

- 1) JavaScript の実行を許可した状態で、Mozilla Firefox や Google Chrome などの Web ブラウザーを起動します。
- 2) アドレスバーに **http://[host_name] : [port_number]** と入力します。
例：http://ad360-server:8082（デフォルトのポート番号は 8082 です。）



[**host_name**] は AD360 が動作しているマシンのホスト名または IP アドレスを指し、[**port_number**] に 8082 を入力します。必要に応じて、インストール後に AD360 の Web サーバーを動作させるポートを指定できます。

SSL を有効化する設定を行った場合は、アドレスバーに **https://[host_name]:[port_number]** と入力します。

管理者として AD360 にログインするには、ユーザー名/パスワードに admin と入力して [ログイン] をクリックします。



上記の方法でリモートマシン上の AD360 にうまくアクセスできないときは、AD360 がインストールされているマシン上の Web ブラウザーから **http://localhost:8082** にアクセス可能であるかご確認ください。

また、ADSelfService Plus と連携している場合のみ、組み込み管理者アカウント以外のユーザーは自身でパスワードをリセットできます。ログイン画面でユーザー名を入力し[パスワードをお忘れですか？]をクリック後、ADSelfService Plus のパスワードリセット画面へ遷移します。次の画面は、パスワードリセットをする画面です。

ADSelfService Plus

tajima (idm.me) ⑦ 04:05 | モバイル・アクセス

パスワードリセット

*新しいパスワード:

*新しいパスワード(再入力):

• パスワードの変更禁止期間: 10
• パスワードの有効期間: 30
• パスワードの長さ: 8
• パスワードの履歴: 24
• パスワードの複雑さ: 有効

キャンセル パスワードリセット

なお、組み込み管理者アカウントのパスワードを変更するには、[管理]タブ→[一般設定]→[パーソナライズ]ページの[パスワードの変更]タブにて実行いただけます。

ADSelfService Plus

ダッシュボード レポート 設定 管理 サポート

カスタマイズ

ログイン設定

パーソナライズ

エンタープライズエッセンシャル

製品設定

ライセンス管理

パーソナライズ設定

表示設定 ポータルのブランド変更 モバイルのブランド変更 パスワードの変更 言語のカスタマイズ

*古いパスワード:

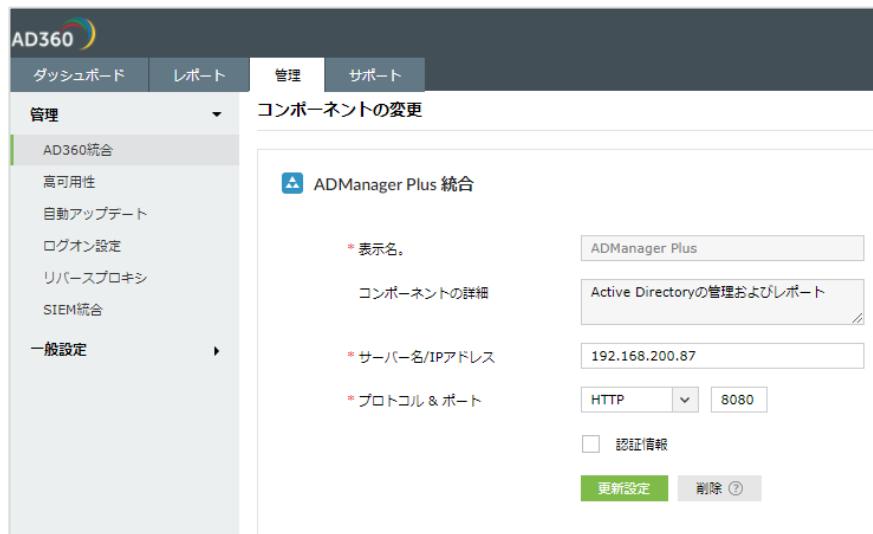
*新しいパスワード:

*新規パスワードの確認:

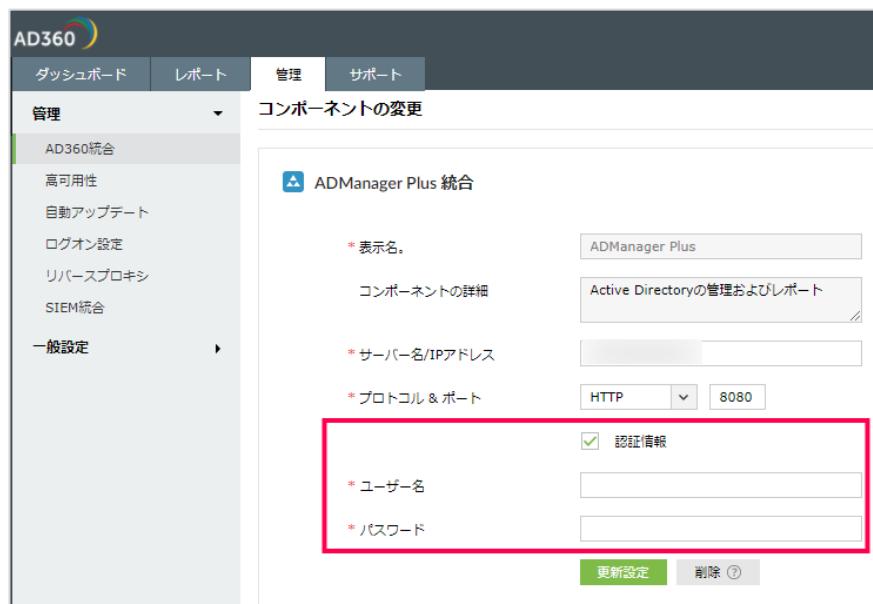
パスワードの変更 クリア

6. 連携設定

- 1) [管理]タブへ移動します。
- 2) 各製品がインストールされているサーバー名/IP アドレス、および Web サーバーの動作ポートを指定します。

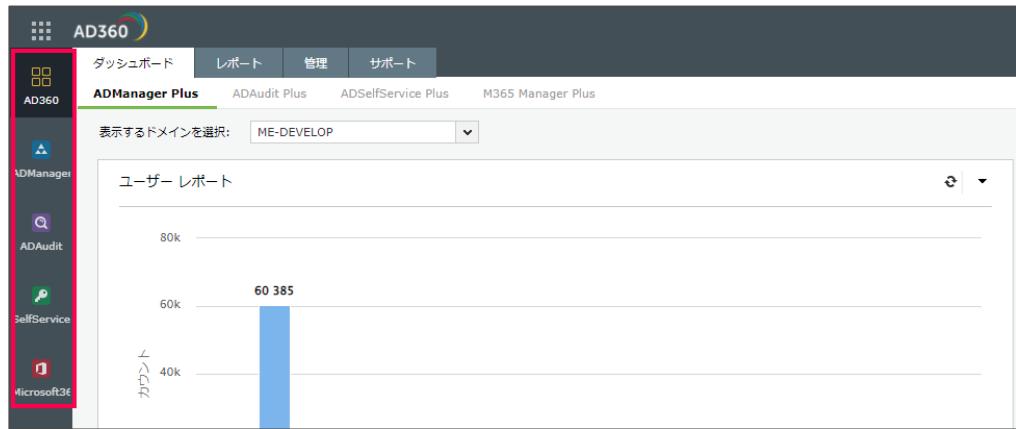


- 3) 連携する製品が AD360 サーバーとは異なる環境にインストールされている場合、[認証情報]にチェックを入れ、製品へログインする際に使用する管理者アカウントの認証情報を指定します。



7. 製品へのアクセス方法

左メニューより、アクセスする製品をクリックします。



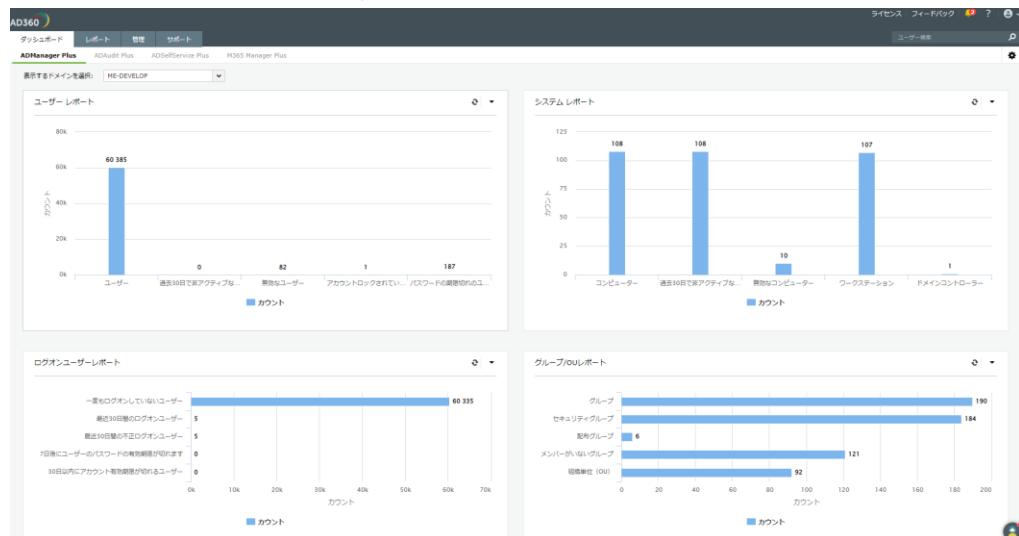
NOTE

AD360 に対する一度のログインで、すべての製品にアクセスすることができます。

8. 各タブの解説

8-1. ダッシュボード

ダッシュボードタブでは、各製品に関する概要レポートが閲覧できます。[ダッシュボード]タブの下に表示されている各製品名をクリックしていただくことで、対象製品の概要が容易に確認できます。



8-2. レポート

レポートタブでは、各製品のレポート機能を一括で閲覧することができます。[レポート]タブの下に表示されている各製品名をクリックしていただくことで、対象製品に備わっているレポートを確認することができます。

下記画像は ADAudit Plus を選択した場合の画面です。



8-3. 管理

管理タブでは、AD360 の管理を行うことが可能です。コンポーネント製品との連携、SSL 証明書の生成および適用、メールサーバーの設定などが可能です。

下記画像は SSL 証明書を生成する画面です。

The screenshot shows the 'SSL Certificate Generation Tool' interface under the 'Management' tab. On the left sidebar, 'SSL Certificate Generation Tool' is selected. The main form has two radio button options: 'CSRを生成' (Generate CSR) and '証明書を適用' (Apply certificate). The 'CSRを生成' option is selected. The form fields include:

- オプションを選択: '共通名' (Common Name) input field.
- SANの名前: (Subject Alternative Name) input field.
- 組織ユニット: (Organizational Unit) input field.
- 組織: (Organization) input field.
- 市/町: (City) input field.
- 都道府県・州: (Province/State) input field.
- 国番号: (Country) input field.
- パスワード: (Password) input field.
- Validity (日): (Validity (Days)) input field.
- Public Key Length (ビット): (Public Key Length (Bits)) input field.

Below the form are two buttons: 'CSRの生成' (Generate CSR) and 'リセット' (Reset). A note below the buttons says: 'または' (Or) and '自己署名証明書を生成して適用してください。' (Generate self-signed certificate and apply it). A note at the bottom left says: 'メモ' (Note):

- server.xmlファイルに保存された証明書(パスワードは、デフォルトで暗号化されます)。
- SSLは初めてですか? [このガイドを参照](#)してヘルプを確認してください。

A note on the right side of the form says: 'CSRを生成し、証明書を適用する手順:' (Steps to generate CSR and apply certificate):

- 手順1: CSRを生成してあなたのCAに提出してください。
- これをするには左側のCSRジェネレーターを使用します。
- 生成された「.csr」ファイルをCAに提出します(CAが発行しているガイドラインを参照ください)

手順2: 証明書を製品に適用します

- 証明書を受け取った後、選択する「証明書を適用」アップロードするオプションです。
- アップロードするためには、秘密鍵/パスワードオプションが

9. 各製品の初期設定

各製品の初期設定については、それぞれのスタートアップガイドをご参照ください。

■ **ADManager Plus**

https://www.manageengine.jp/products/ADManager_Plus/documents.html

■ **ADAudit Plus**

https://www.manageengine.jp/products/ADAudit_Plus/download.html

■ **ADSelfService Plus**

https://www.manageengine.jp/products/ADSelfService_Plus/documents.html

■ **M365 Manager Plus (O365 Manager Plus)**

https://www.manageengine.jp/products/M365_Manager_Plus/download.html

10. お問い合わせ

評価版の使用期間 / 製品ご購入後の技術サポートは、以下のリンクよりご利用ください。

評価版サポート

<https://www.manageengine.jp/support/trial.html>

製品ご購入後のサポート

<https://www.manageengine.jp/support/purchased.html>

本製品に関するお問い合わせ

ゾーホージャパン株式会社 ManageEngine 事業部

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目 6 番 1 号 みなとみらいセンタービル 13 階

ホームページ : <https://www.manageengine.jp/>

AD360 製品ページ : <https://www.manageengine.jp/products/AD360/>